



“ミューラルアート”って言葉、聞いたことあります?直訳すると「壁画」。明確な定義はありませんが、高架下でよく見る壁の落書きとは違い、所有者の許可を受けて描かれるアートのことです。「そういえば、最近区役所の近くで誰かがおっきい壁画描いてたなあ。そうそう、その人!淀川区にも、世界を飛び回るミューラルアーティスト、いるんですよ!

## 壁と闘う壁画アーティスト BAKIBAKIさん

### 唯一無二の“分身”

太く力強い直線を組み合わせて作られたマーク。決して派手派手いわけではないが、どっしりと存在感がある。どこことなく“和”を感じさせ、どんな場所にも馴染みそうだ。この“BAKI柄”が生まれたのは、BAKIBAKIさんがライブペインティングユニット“DOPPEL”として活動し始めた頃。「直感的に『これからずっとこれを描き続けるんやろな』と思いました」と彼は言う。

この柄を描き、育てていく中で、次第に『“麻の葉文様”に似ている』という声が多くなった。麻の葉文様は、江戸時代から広く親しまれるようになったと言われている、日本の伝統文様だ。魔除けや厄払いの意味を持ち、家紋や赤ちゃんの産着などに使われた。「麻の葉文様から着想を得たわけではなかったんですけど、今ではこの文様の意味や役割も込みで、見る人にいろんな見方をしてほしいなと思っています」



麻の葉文様



BAKIBAKI



### “まちなじむ”ミューラルを

ミューラルアートを始めたストリートアートは、まちなかの壁や塀という公共の場所に無断で描かれることもあるため、迷惑行為として忌避されることが多い。

そんな中、その概念をポジティブなものに変えていこうとする動きが、国内でも徐々に現れてきている。「ミューラル文化を地域に根付かせたい」とBAKIBAKIさんは語る。

### じっくり壁と向き合える場所

現在、彼がスタジオを構えるのは、区内でも工場が密集している地域だ。細い通路を抜け、小さな扉をくぐると、突然目の前に見上げるほどの壁画たちが現れる。

「天井、高いでしょ?もともとは祖父の鉄工場なんです。壁画を気兼ねなく練習できる数少ない場所」。スタジオを開放し、他のアーティストに壁画を描いてもらうこともあるという。「交流の場にもなるんです。夏は暑いし冬は外より寒いときもあるけど、気に入ってますよ」と笑う。



▲周りの工場からは機械の音が絶え間なく聞こえてくる

◀スプレー缶や塗料がところ狭しと並ぶ



# 壁面ミューラル 淀川区の未来 でつくる



## 「チャレンジしたい」

かつて十三にあった老舗ライブハウス『ファンダンゴ』の入口に、大きく描かれていたBAKI柄。このライブハウスが2019年に堺に移転してからは、区内にその姿を見ることはできなくなっていた。

そんな折、新型コロナウイルスの影響で、スタジオでじっくり制作する時間が増え、自然と“地元”に壁画を増やしたいという思いも生まれてきた。それが形になったのが『淀川ウォールアートプロジェクト』だ。区内の企業から塗料や資金の提供を受け、まさに新たな文化をつくる第一歩を踏み出した。

## “ひと”がつなぐ文化

“医療従事者へのエールを伝える”というテーマのもと、3月初旬に始まった制作。テープと塗料を駆使し、BAKI柄をフリーハンドで壁に刻んでいく。何の変哲もなかった壁が、みるみるうちに表情を持ち始めた。「SNSを見てわざわざ見に来てくれる方とか、『何描いてんの?』って話しかけてくれる方とかもいて。でも誰より壁主(建物の所有者)さんが喜んでくれました。やっぱり文化って、ひとのエネルギーで広がっていくんやな……。大事にしていきたいですね」。一言ずつ嘯みしめるようにつぶやいた。



▼かつての『ファンダンゴ』入口。  
若い頃よく訪れた憧れのライブハウスだったそう

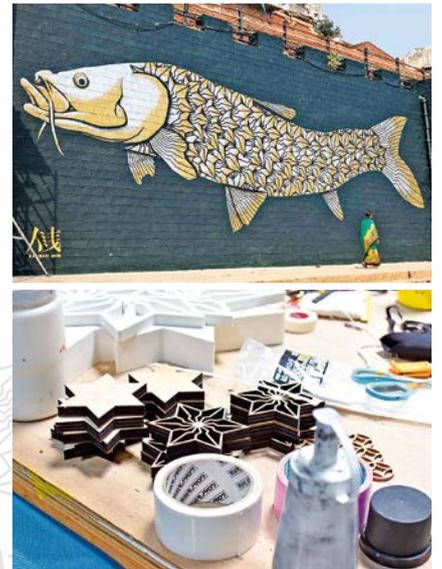


## まずは淀川区から

壁画を描いていて一番楽しいのはどんなときですか?と聞いてみる。「壁画を描くのがゲーム感覚なんです。壁が敵で、BAKI柄は武器。灼熱や極寒の中でも、スコールが来ても、デカイ壁をエレガントに倒せたらそれが一番楽しい」と、思わず笑みがこぼれた。



▼インド、ヴァラナシで制作した壁画。「制作期間中、ガンジス川の魚で食あたりになりました(笑)」



アートを見る楽しさ、作る楽しさ、アートを通して伝えたいこと、作っていきたい未来。彼はすべて余すことなく、見る人に伝えてくれる。「ミューラル文化を地域に根付かせたい」。その一心で、彼はきょうも壁と闘っている。

## 淀川ウォールアートプロジェクト 改称 淀壁(YODOKABE)

第1弾“淀川のナイチンゲール”では、医療従事者など、この状況を支えてくださっている方々へのエールを込めた壁画を作り上げ、大きな話題を呼びました。

今秋始動する第2弾では、プロジェクト名を「淀壁」に改め、「淀川区を文化や芸術の発信地に」という思いを含め、区内に5つのミューラルアートを描き上げます。目の前で大きな壁画ができあがっていく“ライブ感”をお楽しみください!

制作開始 10月(予定)

### “壁”、募集中!

このプロジェクトで次の舞台として使わせていただける“壁”を募集しています。建物の所有者で、ご相談させていただける方はぜひご連絡ください!

問合せ WALLSHARE株式会社 info@wallshare-inc.com 090-8526-5480

詳しくはこちら▶▶



第1弾“淀川の  
ナイチンゲール”



## BAKIBAKI

HPIは  
こちら▶▶



1978年生まれ。  
漫画やアニメを好み、暇さえあれば絵を描く少年時代を過ごす。京都府内の芸術大学に進学し、卒業後の2001年、同じくミューラルアーティストのMON氏とユニット“DOPPEL”を結成、京都にて活動を始める。個人でも活動の幅を広げ、壁画を軸に、国内外でライブペインティングやワークショップを展開しており、2015年からは大阪・十三を拠点として世界中に足跡を残している。